

令和 7 年度
第 1 回堺市堺区政策会議
議事概要

行政資料番号 1 - C8 - 25 - 0175

令和7年度 第1回堺市堺区政策会議 議事概要

開催日時：令和7年6月18日（水）午後1時30分から午後3時00分

開催場所：堺市役所本館3階 大会議室1

出席者【構成員】（敬称略）：生田座長、東根職務代理者（オンライン）、上田、上見、中村
成山、南部、西野、伯耆、本庄、吉成

【事務局】：堺区役所 西川（区長）、辻尾（副区長）、長谷川（保健福祉総合センター所長）、吉野（企画総務課長）、舟尾（企画総務課長補佐）、安田（企画総務課係長）、豊島（自治推進課長）、山崎（自治推進課参事）、野崎（市民課長）、品川（市民課参事）、梶谷（保険年金課長）、工忠（生活援護第一課長）、最明（生活援護第二課長）、仲村（地域福祉課長）、清水（子育て支援課長）

欠席者【構成員】：なし

【事務局】：速水（保健センター所次長）

【議事要旨】

（1）座長及び職務代理者の指名について

座長は、区長から大阪公立大学の生田構成員を指名。

また、職務代理者は、生田座長が大阪公立大学の東根構成員を指名。

（2）第3期堺市堺区政策会議の概要及び次期堺区基本計画（以下「次期プラン」という）の骨子たたき案について

資料1「第3期堺市堺区政策会議の概要」をもとに、事務局から説明を行い、本会議の趣旨や役割、今後のスケジュール等を共有した。また、第2回会議では、「次期プランの骨子案」を議論していただく予定と記載しているが、「次期プラン案」とほぼ同じ内容を提示し、構成員の意見を踏まえたものを「次期プラン案」とする旨を説明した。

資料2「次期堺区基本計画の骨子たたき案」をもとに、事務局から次期プラン策定の背景、目的、方向性、現行のプラン総括、次期プラン基本方針1～4の説明を行い、構成員からご意見をいただいた。

○主な意見・感想

■基本方針1 【統合・改称】 地域でつながり、みんなが安全・安心に住み続けていること

- ・「地域でつながり」というところに着目した場合、堺区が中心となって産官学の連携を積極的に行っていくことも考えられるのではないかと。大学や地元企業とのマッチングなどに取り組む中で、地域のつながりが企業や学生を含めてはかられ、連携も深まり、安心・安全な街につながっていくのではないかと。
- ・基本方針 1 を達成するためには自治会に加入してもらうことも重要であると考えている。そのため、こどもから高齢者まで自治会加入を促進するためにこども会のスポーツや大人を対象としたスポーツなど様々な取組を実施している。また、安全・安心に住み続けるためには自治会の男性、女性どちらかに偏るのではなく、様々な意見を取り入れることが大切である。
- ・区民アンケートの中で、堺区の将来の希望として「犯罪や事故が少なく、また地震や台風などの災害に強く、安全で安心に暮らせる」に 72.4%とかなりの票が集まった。それだけ区民の方も安全・安心というところに着目されていると感じる。
- ・現行の基本方針 2 と 4 を統合し、基本方針 1 に統合された。区民アンケートの結果に基づき、そういった形で進めることについて違和感はない。施策を検討する中で、「犯罪・事故が少ない」と「災害に強い」のどちらに注力すべきかを議論すると具体的な施策につながると感じた。
- ・防災サポーターとして活動する中で、災害があったとき、地域のつながりがとても大切になると思う。自治会の力を借りて校区の避難訓練などの様々な取組が行われているが、堺区に限ったことではないと思うが自治会が中心となって避難訓練などのイベントを行っていることを知らない人も多い。
- ・防災サポーターとして広く防災意識を高めたいと考えており、今年 2 月にイオンモール鉄砲町で防災フェスを行った。地域のつながりを考える際、校区という近い関係だけでなく、もっと広くつながる、行き来するという取組も考えていきたい。
- ・区民アンケートの結果で『地域活動の参加』のアンケート「参加していないが、関心がある」が非常に高い（21.5%）ことは注目すべきである。特に、年齢別でみると 20 歳代も少し高い。何かきっかけがあれば地域活動に参加する可能性は高いと考えられるので、そのような機会を提供できれば良いと思う。
- ・自治会での防災計画の話し合いで大学の先生から「平日に避難訓練を行い、企業の力を借りてみてはどうか」というご意見があった。避難訓練は基本日曜日に実施しているため、現状、企業の力を借りられていない。今後、地元企業を巻き込んで取り組む必要があると感じる。
- ・堺区は昨年度から自治会の防災士資格取得に対して支援しており、自分の校区で 5 名取得することができた。将来的には各単位自治会で 1 名は取得できればと思っている。この制度を続けていただき、防災士の資格を取っている方を、自治会の会議に参加してもらい、防災知識を反映させていくことが重要である。

■基本方針 2 【改称】歴史と日常が共存し、堺区の魅力が世代を超えて伝えられていること

- ・区民アンケートによると堺区に関する情報の入手元として、「広報さかい堺区版」の割合が 79.6%であるとのことである。コスト削減等のため、紙媒体の印刷を減らし、デジタル化していく大きな流れがあるが、こういったアンケート結果は大切にすべきである。今後は紙とホームページの連動（クロスメディア）などを引き続き行うことが重要である。

- ・情報配信は非常に重要であり、どのツールで配信するか、世代別に使い分けていく必要がある。そのうえで、その情報は誰が配信しているのか、本当に自分に有益か、自分と共感できる人材が配信しているか、情報の正確性はどうか、ということが非常に大切である。堺区は、歴史的に魅力的なコンテンツもあり、様々なツールもあるが、区民に情報が届くことが重要と思う。

■基本方針 3 【改称】 信頼される区役所を実現し、全ての人が堺区に満足していること

- ・基本方針 3 にある「全ての人」という意味には、当然区民に区役所の職員も含まれると考える。区民の利便性、職員の負担軽減等を考えると、行政の DX 化は必須である。効率化を図られる部分は DX 化を行い、そこから生まれる余力はあらゆる区民のニーズに応える体制の維持にまわすことが大切である。
- ・市役所が閉まっている時間にオンライン申請で手続きを完結できることは、とても助かる。また、オンラインのニーズと、窓口で丁寧に対応してもらいたいというニーズは別ではなく、分けて考える必要はないと思う。
- ・多種多様なニーズに応える必要がある中、オンラインと窓口のどちらが良いのか、様々な人に確認しながら進めることが大切と感じる。
- ・今回、基本方針を4つ作るにあたり、最終的な目的が『区民が堺区に満足している』ことがゴールであると考えながら、基本方針 3 は『信頼される区役所を実現し、全ての人が堺区に満足していること』が大目標となっている。基本方針 3 のタイトルは入れ替えを行う方が良いのではないか、という印象を受けた。

■基本方針 4 【新設】みんなが健康で、いきいきと暮らし活躍できること

- ・世代を問わず、非常に重要なテーマを掲げられているが、今回の案では高齢者に焦点をあてた記述になっている。調査結果 12 ページ『⑥健康増進の取組（ウォーキング活動、健康教室など）』で、40 歳代から 64 歳までの方の「満足・どちらかといえば満足」が少し低くなっているため、高齢者だけではなく世代を問わない内容になっていけば良いと思う。
- ・堺区の郵便局と区役所の協定で、認知症の方のサポートをしているが、予防という観点の取組ができていないと感じる。
- ・堺区は健康増進のため、様々な取組をされていると感じる。区民アンケート結果では単身世帯の方が健康増進のための取組率が低いので、その方たちに情報が届いて参加しやすい取組を実施する。また、男性は少し参加しづらい、という状況の中でその分野に対応する取組もあれば良いと思う。
- ・基本方針 4『みんなが健康で、いきいきと暮らし活躍できること』であるため、私やこどもの世代も入っていると思ったが単身高齢者中心でちょっと肩透かしのような感覚もある。全て区がやらなくても良いと考えるが、市と区の役割を考え、市が行っていることは区民に周知できる体制が大切。
- ・基本方針 4 は、幅広く様々なケースがあると思うので、それを加味した上で、進めていかないとこの方針を達成することができないと思う。
- ・区民の方たちの声を拾い上げることが理想であるが現実的には難しい部分もあると思う。区民と一緒にプロジェ

クトをやっていければよい。

■その他（上記 1 ～ 4 以外に関してのご意見）

- ・堺区の特徴を把握したうえで、世代全体の区民満足度を高める施策実現のため、区民の意見をくみ取り、共感する施策を行うことが重要であると思う。
- ・堺区チャレンジプラン（冊子）があるが、実際どれだけの人が把握しているのか。堺区の自治連合協議会の会議でも知らない人がいた。どのように水平展開していくかという議論も大事であり、その方向性を示すことが重要。